



高速道路の機能強化と 広くお客さまに利用される 高速道路空間への進化

高速道路の新規開通、4車線・6車線化、構造物の老朽化や激甚化・頻発化する自然災害への対応を着実に実施することで、お客さまに安全で安心・快適な高速道路空間をお届けするとともに、“移動”だけでなく幅広く利用いただける高速道路空間へと進化させていきます。

達成目標

	2025年度目標	2021年度		2022年度目標
		目標	実績	
新規開通延長 [2021年度からの累計]	新東名高速道路など 累計82km※1を新規開通します。	32km	19km	13[32]km
構造物の健全性	5年以内の補修が必要な 健全性診断Ⅲ※2評価の構造物の 補修を100%完了します。	100%	100%	100%
快適走行路面率	快適な路面を95%以上 維持し続けます。	95%以上	96%	95%以上
死傷事故率	死傷事故率を10%低減します。 (2019年度比)	5.0 件/億台km以下	3.8 件/億台km	5.0 件/億台km以下
逆走事故件数 [人身事故件数]	逆走事故件数を50%低減します。 (2019年度比)	6[3]件以下	3[0]件	6[3]件以下
渋滞損失時間	交通集中に起因する 渋滞損失時間を25%※3低減します。 (2019年度比)	561.7 万台・時間以下	553.4 万台・時間	555.9 万台・時間以下

※1 新東名高速道路 新奈野IC～新御殿場IC間25kmを含んでおり、当該区間の2023年度の開通は事業工程精査中
 ※2 構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
 ※3 ※1の事業工程精査により、2025年度目標が変動する可能性あり

1 高速道路ネットワークの整備・機能強化

2021年度は、新東名高速道路7kmの開通、名古屋第二環状自動車道12kmの開通による同道の全線開通、東海北陸自動車道2kmの4車線化、スマートインターチェンジ3カ所の整備を、2022年4月には、新東名高速道路13km、スマートインターチェンジ1カ所が開通しました。また、豊橋新城スマートIC、両河内スマートIC、東海北陸自動車道 福光IC～南砺スマートIC間の一部区間の4車線化が2021年度に事業化され、事業に着手しています。

▶ 新規開通予定 (2022～2025年度までに63km)

路線	区間	延長[km]	完成年度
E1A 新東名高速道路	伊勢原大山～新奈野	13	2022.4開通
	新奈野～新御殿場	25	工程精査中
C3 東海環状自動車道	山県～大野神戸	19	2024
	北勢～大安	6	2024

▶ 4車線化・6車線化及び付加車線の事業中区間

路線	区間	延長[km]
E41 東海北陸自動車道	白川郷～小矢部砺波JCT	33
E1A 新名神高速道路	亀山西JCT～甲賀土山	13
C3 東海環状自動車道	土岐JCT～美濃加茂	10
E42 紀勢自動車道	勢和多気JCT～紀勢大内山	17

▶ 事業中のスマートインターチェンジ

名称	区間
E1 東名高速道路	
豊橋新城スマート	三ヶ日JCT～豊川
岡崎阿知和スマート	岡崎～豊田JCT
東郷スマート	東名三好～日進JCT
E1A 新東名高速道路	
奈野丹沢スマート(2022.4開通)	伊勢原大山～新奈野
山北スマート	新奈野～新御殿場
小山スマート	新奈野～新御殿場
E1 名神高速道路	
多賀スマート	彦根～八日市
E19・E20 中央自動車道	
甲府中央スマート	甲府南～甲府昭和
諏訪湖スマート	諏訪～岡谷JCT
神坂スマート	園原～中津川
E41 東海北陸自動車道	
城端SAスマート	福光～五箇山
E68 東富士五湖道路	
富士吉田忍野スマート	富士吉田～山中湖
E52 中部横断自動車道	
両河内スマート	新清水JCT～富沢
C3 東海環状自動車道	
海津スマート※	養老～北勢

※国土交通省と共同で事業を実施する区間にあるスマートインターチェンジ



営業中のスマートインターチェンジは
こちらをご覧ください。



※東京外かく環状道路 大泉JCT～中央JCT間は、国土交通省及び東日本高速道路株式会社から委託を受けて事業を実施

TOPICS

新東名高速道路の開通による効果

新東名高速道路(伊勢原大山IC~新秦野IC間)の開通により、沿線地域の観光活性化、物流の効率化、ダブルネットワークの確保が期待されます。

▶沿線地域の観光活性化

沿線地域の観光地へのアクセス性が向上し、観光活性化に寄与します。また、東京駅から秦野市に直通する高速バスの試験運行が開始されるなど、観光客の増加が期待されます。



観光施設の声

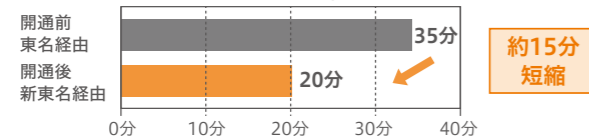
秦野丹沢スマートICが県立秦野戸川公園の近くにあることから、現在よりも広範囲から観光に訪れていただくことが期待されます。より多くの方に秦野市の魅力を知ってもらえると嬉しいです。

※2021年12月ヒアリング調査結果

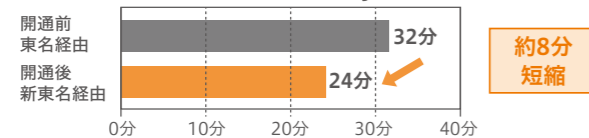
▶物流の効率化による生産性向上

開通区間周辺の工業団地から都心方面への所要時間が短縮され生産性の向上が期待されます。

■大秦野工業団地入口~海老名JCT



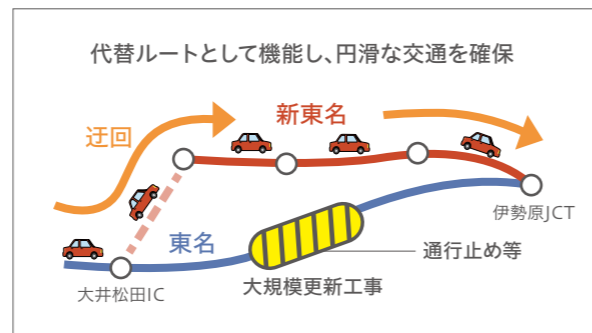
■堀山下テクノパーク入口~海老名JCT



※混雑時旅行速度を用いて算出 (新東名は100km/hで算出)
出典:平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

▶ダブルネットワークの確保

東名高速道路(伊勢原JCT~大井松田IC間)や国道246号の並行区間が通行止めの時に代替路として機能します。



社員の声 大規模プロジェクトに携わって

東京支社 秦野工事事務所 施設工事班 係長 **橋本 光平**

はしもと こうへい
橋本 光平

2022年4月に開通した新東名高速道路 伊勢原大山IC~新秦野IC間は、様々な設備を備える長大トンネルが多く、また、新秦野IC、秦野丹沢スマートICの2カ所が同時に開通した区間で。道路設備が非常に多く、施設職として今まで自分が経験したことのない大規模なプロジェクトに携わりました。受注者、行政機関、社内など多くの関係者と連携しながら工事を進めていく必要があり、特にコミュニケーションとスピード感を大切にしながら業務にあたりました。



2 加速するインフラ老朽化に対する着実なメンテナンス

道路構造物の計画的な保全

開通後30年を超える区間が約6割に及び、大型車交通量の増加や凍結防止剤の影響により構造物の老朽化が進行しています。高速道路ネットワークを健全な状態で次世代に引き継ぐために、着実に点検し、計画的な維持・補修・補強を行っています。



予防保全の推進と技術開発

故障や不具合が生じる前に対応する予防保全の観点から、橋梁の継ぎ目部(伸縮装置)からの漏水による劣化や交差道路上等でのコンクリート片の落下対策などを推進しています。また、新たな技術開発として、構造物に悪影響を与えない凍結防止剤の研究・開発に取り組んでいます。



伸縮装置からの漏水対策

コンクリート片落下対策

重量違反車両等の取締り強化

道路構造物に大きな損傷をもたらし、重大な交通事故につながる重量超過法令違反車両等に対する取締りを強化しています。IC入口等に取締隊を配置し、違反者には積荷を軽減させるなどの措置命令を行い、特に悪質な場合は刑事告発をしています。

また、違反者に対する大口・多頻度割引停止措置等を強化するとともに、本線に設置した自動計測装置で、違反者の常時取締りに取り組んでいます。



鋼材の腐食対策工事



※構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態



重量違反車両等の取締り

めざす姿
安全性の向上
高速道路の機能強化と進化
ハライト
新たな価値創造への挑戦
経営基盤の強化
データ

大規模更新・修繕の着実な推進

橋梁やトンネルなどの構造物を最新の技術を用いて補修、補強し、建設当初と同等又はそれ以上の性能や機能を回復することで、高速道路をこれからも長く健全に保つ「高速道路リニューアルプロジェクト」に取り組んでいます。

社員の声

相手の目線に立って考える

東京支社 伊勢原保全・サービスセンター 工事担当 係長 **中筋 由佳**

西湘バイパスにおける床版取替工事及び耐震補強工事を担当しています。現場が海岸・漁港部にあるため、工事に際して海岸・漁港管理者、漁業関係者、地域の皆さまなど、多数の関係者との調整が求められます。事業の着実な推進に向けて、一方的にこちらの計画を通そうとするのではなく、相手の目線に立って、何かしら地域へ協力できることはないかを意識し、模索しながら仕事をしています。



高速道路リニューアルプロジェクトについてはこちらをご覧ください。



▶2021年度までの高速道路リニューアルプロジェクトの実績

路線	構造物の種類	工事内容	数量
E1 東名高速道路	橋梁	床版の取替	32橋
	トンネル	トンネルを覆うコンクリートの補強	1チューブ
E19・E20 中央自動車道	橋梁	床版の取替	19橋
	トンネル	トンネルを覆うコンクリートの補強	2チューブ
E8 北陸自動車道	橋梁	床版の取替	27橋
E84 西湘バイパス	橋梁	床版の取替	3橋
E85 小田原厚木道路	橋梁	床版の取替	3橋

▶2022年度 高速道路リニューアルプロジェクトの完了予定

路線	構造物の種類	工事内容	数量
E1 東名高速道路	橋梁	床版の取替	10橋
E19・E20 中央自動車道	橋梁	床版の取替	5橋
E8 北陸自動車道	橋梁	床版の取替	17橋
E84 西湘バイパス	橋梁	床版の取替	2橋
E85 小田原厚木道路	トンネル	トンネルを覆うコンクリートの補強	8チューブ



高速道路リニューアル工事(西湘バイパス 早川分岐[早川Bランプ橋])

3 激甚化・頻発化する自然災害への対応

耐震補強対策の推進

2016年に発生した熊本地震による橋梁の被災状況を踏まえ、災害時の救急救命活動や復旧支援活動を支えるため、大規模な地震時でも軽微な損傷に抑えられ、速やかな機能回復が可能となるよう橋梁の耐震補強を進めています。



迅速な緊急交通路の確保

国の「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」等に対応し、大規模災害時の緊急交通路を確保するため、資機材を備蓄しています。大規模災害が発生した場合は、緊急交通路の早期確保をめざします。また、防災訓練やお客さまの安全確保を目的とした避難誘導訓練を実施し、顕在化した課題への対応や関係機関との連携などに努めています。



災害時段階解消訓練

防災・減災対策のマネジメント

災害時でも交通が確保できるよう、総合的な防災対策の拠点となる事務所等の浸水・冠水対策に取り組んでいます。また、災害時のお客さま支援に必要な備蓄に加え、大規模災害発生時に関係機関の活動拠点となる休憩施設では、非常用電源や生活用水の確保などの防災機能強化を進めています。2022年3月には管内56カ所のサービスエリア又はパーキングエリアが広域災害応急対策の拠点となる「防災拠点

自動車駐車場」に指定されました。

加えて、災害発生時の被災状況の迅速な把握、被害の拡大防止、高速道路の早期復旧などを行う現地対策本部を技術的に支援する仕組みとして、2021年7月から「N-TECS※」の試行運用を開始し、2022年5月から本格的に運用しています。

※ NEXCO中国 Technical support



中央自動車道 岡谷JCT～伊北I.C.間で発生した土石流による被災状況(2021年8月15日)

荒天時の対応の強化

大雪に備え、除雪体制の強化や立ち往生車両を早期に発見するための監視カメラを増設しています。人命を最優先に高速道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避し、除雪能力を超える降雪に対しては、予防的通行止めを実施して集中除雪を行います。万一の車両滞留に備え、滞留状況の正確な把握やお客さま支援のための専任の体制を確保します。また、最も規格の高い高速道路が災害時においても最大限機能するよう、通行止め基準を降雨経験に基づく基準に替わり、土壌中の水分量に着目した土壌雨量指数等を考慮した科学的データに基づく基準を試行導入し、通行止めの開始や解除のタイミングの適正化や通行止め時間の最小化に取り組んでいます。



降雪時の除雪作業

▶通行止め時間(災害・悪天候)

項目	2019	2020	2021
通行止め時間[時間]	1,792	1,509	2,284

主な工事内容

橋梁

床版の取替
耐久性の高いコンクリート床版に取替えます。

■橋梁損傷状況
コンクリートのはがれ落ち、遊離石灰の漏出

■補強部材の取り付け

高性能床版防水の施工
水、塩化物がコンクリート床版に浸透するのを遮断し、劣化の進行を抑えるために、防水層に高性能な床版防水を施工します。

■桁補強
耐久性を高めるために、桁に補強部材を取り付けます。

床版取替工事の手順

※床版の取替は、舗装の撤去作業からレーンマーク設置作業まで作業内容が多岐にわたり作業日数を要するため、休日を含めた長期間の規制が必要となります。お客さまに対する工事規制の影響を最小限とするため、工場で作成したプレキャスト製品の活用や最新技術を駆使して工事を進めています。

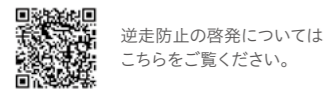
4 交通事故と渋滞の低減

事故多発地点での集中的な対策

これまで実施してきた高機能舗装等の走行環境を改善するハード対策に加え、事故多発箇所におけるデータ収集、解析技術を用いた速度抑制や注意喚起など重点的に交通安全対策を推進します。また、ソフト対策として道路情報板等での注意喚起や交通安全セミナー(P.53参照)の実施など交通安全啓発活動を展開しています。

逆走対策の強化

高速道路の逆走は、逆走以外の事故と比べ死傷事故となる割合が5倍、死亡事故では40倍になります。安全・安心実施計画(P.26参照)における「2029年までに高速道路での逆走重大事故ゼロ」を実現するために、一般道からの誤進入対策に加え、電光表示による逆走警告や錯視効果を応用した路面標示などの公募で集まった新技術も活用しています。また、「無くそう・逆走」をキーワードに、サービスエリア等での呼びかけのほか、テレビCM等の各種メディアを活用した交通安全啓発活動を実施しています。



逆走防止の啓発については
こちらをご覧ください。

暫定2車線区間の安全・安心確保

暫定2車線区間の正面衝突事故防止対策として、土工区間や長さが50m未満の橋梁では、ワイヤロープの設置を行っており、2022年度の設置完了をめざしています。また、長さが50m以上の橋梁とトンネル区間においては、センターパイプやセンターブロックを試行的に設置しています。



ワイヤロープ

センターブロック

渋滞対策の推進

交通集中による渋滞対策として、中央自動車道 小仏トンネル付近等での付加車線の設置を推進するとともに、名神高速道路 一宮IC～一宮JCT間での付加車線の設置に向け、2022年1月に工事着手しました。

また、「高速道路ドライブアドバイザー」によるきめ細やかな情報発信を行っています。

▶交通集中に起因する渋滞損失時間 (年度)

項目	2019	2020	2021
渋滞損失時間[万台・時間]	595.1	339.7	553.4

▶主な渋滞区間と対策

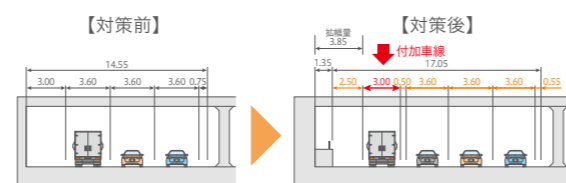
路線	渋滞ポイント	対策内容
E1 東名高速道路	■横浜町田～海老名JCT	付加車線設置
	■東名三好～日進JCT(上)	付加車線設置
E1 名神高速道路	■一宮～一宮JCT	暫定3車線運用
E20 中央自動車道	■高井戸～調布 三鷹バスストップ付近	付加車線設置
	■八王子JCT～相模湖 小仏トンネル付近(上)	付加車線設置
	■八王子JCT～相模湖 相模湖バスストップ付近(下)	付加車線設置

TOPICS

東名高速道路 大和トンネル付近の付加車線 一部運用開始

全国の高速道路の中でも渋滞が激しい箇所の一つであった大和トンネル付近において、大和トンネルの付加車線の一部を運用開始しました。これにより、交通容量が増加することで、渋滞の緩和が発現しています。

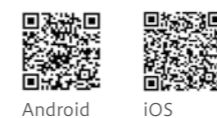
■大和トンネルの横断面



TOPICS

「みちラジ」管内全域への配信

高速道路を走行中のお客さまの位置情報をもとに、ハイウェイラジオで提供している渋滞・事故・通行止めの情報や所要時間情報を入手できるスマートフォンアプリ「みちラジ」の情報提供範囲が当社管内全域に拡大しました。



みちラジのダウンロードは
こちらにアクセスください。

Android

iOS

5 利用しやすい料金サービスの展開

ETC2.0サービスの推進

ETC2.0サービスを活用した道路管理・交通情報の高度化をめざし、安全走行を促進する技術の開発、検討を進めます。さらにETC2.0の利用を増やすため、ETC2.0車載器の普及促進に取り組みます。



ETCの専用化等

ETC利用率の拡大などの社会情勢の変化を踏まえつつ、ETCの専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進します。2022年4月1日には、中央自動車道 稲城ICと首都圏中央連絡自動車道 八王子西ICでETC専用化の運用を開始しています。

▶サポートレーン

ETCが使えない状態で誤ってETC専用料金所をご利用された場合は、「ETC/サポート」または「サポート」と表示されたレーンを通行し、一旦停止して係員等の指示に従ってください。



首都圏中央連絡自動車道 八王子西IC

▶ETC専用化等のロードマップ

都市部は5年、地方部は10年程度での概成をめざして計画的に推進します。

(2020年12月17日公表)

	料金所数※1	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	...	2030年度頃
都市部 (首都圏)	中日本 22	導入準備※2			首都圏(圏央道及びその内側) 数カ所導入 ⇒ 順次拡大(8割程度) (20カ所程度)					順次拡大 ⇒ 全線
都市部 (中京圏)	中日本 71	導入準備※2			中京圏(東海環状及びその内側) 数カ所導入 ⇒ 順次拡大(8割程度) (60カ所程度)					順次拡大 ⇒ 全線
地方部	中日本 179	導入準備※2			数カ所導入 ⇒ 運用状況や各地域の特性等を 考慮しつつ順次拡大					全線

・非ETC車は、料金精算機、免許証確認による後日支払いなど、各料金所の現況等を踏まえ、各高速道路会社が適切な手法を選択(導入時～当面の間)
・導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議などにより、適時変更の可能性あり
※1 2020年12月1日現在の既存料金所のうちETC専用運用されていない課金料金所数 ※2 カメラ等の設置や関係機関との協議など

高速道路における安全・安心実施計画

高速道路ネットワークの効果的・効率的な利用に向けて、「高速道路における安全・安心実施計画」を策定しています。本計画に基づく各施策を経営方針や主要施策に落とし込むことで着実に実施していきます。



高速道路における安全・安心実施計画については
こちらをご覧ください。

新型コロナウイルス感染症に対する取組み

▶新型コロナウイルス感染症の感染予防にあたって

社会インフラを担う企業グループとしての使命を果たすため、お客さまが安心して高速道路をご利用いただけるよう「中日本高速道路(株)における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」に基づき、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいます。



中日本高速道路(株)における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインについては
こちらをご覧ください。

6 休憩施設の快適性と利便性の向上

サービスエリアのリニューアル

2021年度は、東名高速道路 東郷PA(上り・下り)の全面リニューアルを行い、飲食コーナーに加えて新たにコンビニエンスストアをオープンしました。その他にも、東名高速道路 牧之原SA(上り)では、コインシャワーとコインランドリーを増設し、待合室も新設するなど、お客さまのニーズに対応したリニューアルを行いました。今後も計画的にリニューアルを行い、より快適、より便利に過ごしていただける高速道路空間へと進化を続けます。



全面リニューアルした東名高速道路 東郷PA(下り)

多様なニーズにお応えして

■様々なお客さまの快適性の向上

ご家族向けにキッズコーナー、ペット連れのお客さま向けにドッグランを整備しています。また、地域のお客さまには、一般道から出入りできる「ぷらっとパーク」を整備しています。主要エリアには、エリア情報や沿線観光情報の提供、ベビーコーナー、救護室への案内など多様なニーズにお応えするため、エリア・コンシェルジュを配置しています。

加えて、デジタルサービスエリアガイド等新機能を追加したNEXCO中日本公式スマートフォンアプリ「わくわくハイウェイ」でお得なエリア情報等を配信しています。



NEOPASA駿河湾沼津(下り)ベビーコーナー

■新しい生活様式への対応

お客さまが安全に、安心して店舗をご利用いただけるよう、新型コロナウイルスを想定して国が公表した「新しい生活様式」への対応として、店舗の定期的な消毒やレジ待ち位置の明示、アクリル板の設置、客席の間隔確保などに取り組んでいます。

また、接触機会を削減するため、一部の店舗でQRコード決済の拡充やモバイルオーダーシステムを導入するなど、デジタル化を推進し、社会環境の変化に対応した商業施設づくりを進めています。



アクリル板の設置

■プロドライバー向けサービスの展開

仕事で高速道路を利用されるお客さまをサポートするため、シャワールーム(19エリア)やコインランドリー(20エリア)、温浴施設(5エリア)などのサービスを展開しています。また、いつでも軽食等をご利用いただけるよう24時間営業していない店舗や無人パーキングエリアなどに食品自販機の設置を進めるなど、今後もサービスの拡大・充実を図っていきます。



東名高速道路 牧之原SA(下り) コインシャワーの増設



営業時間等の詳細、プロドライバー向けサイトについてはこちらをご覧ください。

地域の魅力発信

沿線地域の活性化や地域社会との連携を強化するため、地元自治体等と連携したイベントや物産展を開催することで、サービスエリアから地域の魅力を発信しています。



中央自動車道 恵那峡SA(下り) 五平もち祭りの開催

トイレの快適性向上

サービスエリアのトイレの快適性向上は、当社が特に力を入れている取組みの一つです。リニューアルを進め、快適性の向上を図るとともに、設備面や清掃面に様々な工夫をしています。2021グッドトイレ選奨では、選奨1件、入選2件を受賞しました。加えて、外国人のお客さま向けに、温水洗浄便座の操作や正しいトイレの利用方法を14か国語でご案内するタブレットの整備を進めています。視覚障がい者の方に向けては、立体的なボタンを追加するなど、お客さまの声をもとに改良を重ねています。また、トイレ内で動けなくなったお客さまや忘れ物を早期に発見するアウトラインセンサーの整備箇所を拡大しました。



タブレットの整備



個室満室情報の掲示

TOPICS

トイレ床面の清掃ロボットを導入

エリアキャストが行うトイレの清掃の一部を担う「清掃ロボット」を2021年7月に新東名高速道路 浜松SA(下り)に導入しました。ロボットにより床面の清掃を自動化することで、これまでの清掃作業時間が約1割短縮されました。今後は、小便器の下部等他の清掃作業を担うロボットの導入も検討し、生産性向上のための最適な清掃の方法を検証します。

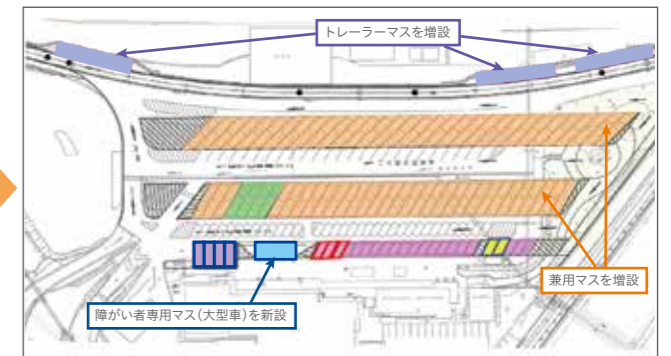
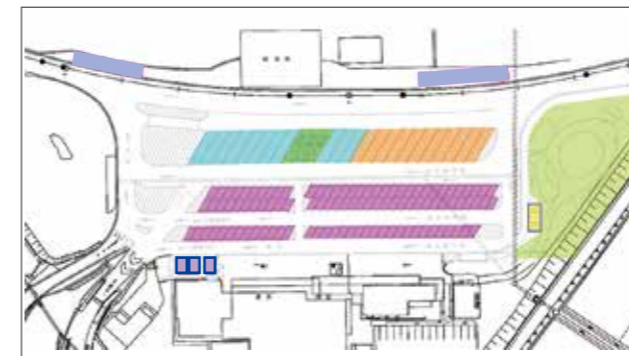


清掃ロボット

駐車場の混雑対策

駐車場の混雑緩和に向けて駐車マスの拡充や混雑情報の提供を行っています。2021年度は北陸自動車道 南条SA、伊勢湾岸自動車道 湾岸長島PAなど約470台分の大型車駐車マスを拡充しました。2022年度は新名神高速道路 土山SA、中央自動車道 小黒川PAなど約180台分の拡充を予定しており、今後も、更なる駐車マス拡充に取り組めます。

▶ 駐車マス拡充事例 北陸自動車道 南条SA(上り)



効果 平日夜間の大型車エリアの混雑及び昼間の普通車エリアの混雑が緩和

改善点 ・土地を有効利用して駐車マスを増設
・普通車と大型車のどちらでも利用できる「兼用マス※」を増設することで、大型車の駐車可能台数が増加

※「兼用マス」のご利用にあたっては、普通車、大型車それぞれの駐車マスを優先的にご利用いただき、それぞれの駐車マスが満車の場合に「兼用マス」をご利用ください

項目	対策前	対策後
小型車 駐車可能台数	123台	144台
大型車 駐車可能台数	27台	69台

【凡例】

小型車マス	大型車マス	障がい者専用マス(小型車)
優先マス(高齢者、妊婦など)	バスマス	障がい者専用マス(大型車)
兼用マス	トレーラーマス	EVマス

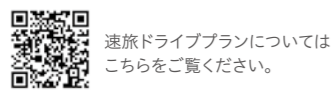
7 地域間交流の促進による地域の活性化

速旅ドライブプランの拡充

高速道路周遊バスと観光施設の利用券などをセットにした速旅ドライブプランのラインナップを拡充し、よりご利用いただきやすいものにしていきます。多くのお客さまにご利用いただくことで、高速道路の利用促進を図るとともに、観光をはじめとした地域経済の活性化に貢献します。併せて、地域の魅力発信や地域ニーズに合った観光プロモーションを積極的に展開します。



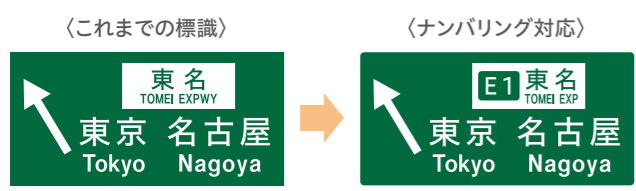
速旅ドライブプラン受付TOP画面(公式WEBサイト)



インバウンドへの取組み

■高速道路での案内

外国人のお客さまにも安心して便利に高速道路をご利用いただけるよう、案内表示の多言語化を推進するとともに、標識に路線番号を用いて案内するナンバリングを行っています。また、道路管制センターへの外国人のお客さまからの電話を通訳会社に転送し、通訳会社を通じて会話するサービスを24時間体制で導入しています。



■サービスエリアでのサービスの充実

施設案内ピクトグラム、フリーWi-Fi(166エリア)、免税店(34エリア)、海外発行カード対応ATM(90エリア)、ムスリム向け礼拝スペース(3エリア)などを設置しています。日本語に不慣れなお客さまにもわかりやすく、

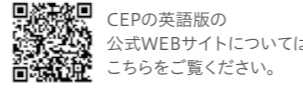
安心して食事いただけるよう飲食店舗では特定原材料などをフードピクトグラムで表示しています。また、エリア・コンシェルジュでは翻訳ツールを活用し、多言語に対応した案内を行っています。(2022年4月現在)



フードピクトグラム(一部抜粋)

■旅行商品の販売

訪日外国人旅行者向けドライブプラン「速旅Central Nippon Expressway Pass(CEP)」や「Japan Expressway Pass(JEP)」をレンタカー会社と連携して実施しています。



社会貢献活動

人手不足に直面している農山村で、地域住民の皆さまとともに環境や景観保全のボランティア活動に取り組んでいます。2021年度は、3県5地区で延べ約300名のグループ社員が参加しました。また、地域社会の一員として、就労体験や安全講習会などを通じて、次世代を担う子どもたちに向けて高速道路の役割などを学ぶ機会を提供しています。



ボランティア活動(茅場の草刈り)

地域の声

世界遺産合掌造りの保存

越中五箇山菅沼集落保存顕彰会 会長 **中島 慎一** 様

私は富山県南砺市にある世界遺産五箇山菅沼集落の代表をしています。NEXCO中日本には、世界遺産の合掌造り集落を守るために、屋根に使われる茅(カリヤス)の保全活動を地元住民と一緒に取り組んでいただいています。2012年に集落と保存協定を結び、活動は10年目を迎えました。リピートされる参加者も多く、この取組みは、地域にとって今では欠かせない存在となっており、地元住民も毎回お越しいただけることを楽しみにしています。



TOPICS

学生アイデアコンペティションの開催

横浜国立大学との包括的な連携推進に関する協定に基づき、同大学及び早稲田大学の学生によるアイデアコンペティションを開催しました。サービスエリア・パーキングエリアに着目して、催事区画を活用した企画やSNSを活用したプロモーションをテーマに、学生のアイデアを活かした魅力的な高速道路空間の実現に向けた活動に取り組んでいます。



学生によるアイデアコンペティション

地域から親しまれる高速道路空間へ

地域環境の美化、高速道路高架下のイメージアップ、地域住民に安らぎを与える高速道路空間の創出を目的に岩倉市、愛知県立岩倉総合高校の美術部員と連携し、名神高速道路石仏高架橋に明るい色調の壁画を制作しました。壁画が見える駅の利用者、地域の皆さまに気持ちのよい空間を提供するとともに、地域との関わりを実感できる取組みとなっています。



壁画の前で記念撮影

ベジブル 野菜を使ったジャム「VEGEBLE」の開発

山梨県立大学と連携し、山梨県産の野菜を使用したジャム「VEGEBLE」を中央自動車道 双葉SA(下り)で発売しました。学生との意見交換を踏まえ、「山梨県の魅力を再発見してもらうこと」を目標に、フルーツ王国として知られる同県の個性に富んだ地形で栽培された良質な野菜に着目し、開発しました。野菜が苦手な方でもおいしくいただける商品です。



野菜の頭文字を冠したデザイン (お:大塚ニンジン か:甘々娘 も:桃太郎トマト)

若手社員が社会科の先生に

高速道路の役割や効果などを知ってもらうことを目的として、敦賀市立角鹿小中学校の中学2年生と若狭町立気山小学校の5・6年生に、若手社員が先生となり社会の授業を実施しました。授業では、除雪作業をはじめ安全で快適な高速道路を支える取組みやSDGsの達成に向けたトンネル照明のLED化などの事例紹介を通じて、子どもたちに将来の仕事について考えてもらいました。今後もこの活動を継続し、当社事業への理解促進に取り組めます。



若狭町立気山小学校での授業

「地域間交流の促進による地域活性化」は、新型コロナウイルス感染症の終息を見据えた取組みであり、社会貢献活動においても感染拡大状況を踏まえた上で、感染症対策、移動の制限をした上で実施しています。